



# お客様システム事前設定ガイド ADサーバ／Exchangeサーバ／DNS

(最終更新日：2016年12月12日)



# 目次 Contents

## **1 はじめに**

- 1-1 本マニュアルの目的
- 1-2 注意事項
- 1-3 ご利用のイメージ

## **2 導入準備**

## **3 ADサーバ(Windows Server 2008R2)の設定**

- 3-1 Workspace Mobility利用者用 新規グループの作成
- 3-2 Workspace Mobility利用者用 ユーザアカウントの追加
- 3-3 Workspace Mobility管理用 アカウントの作成

## **4 ADサーバ(Windows Server 2012R2)の設定**

- 4-1 Workspace Mobility利用者用 新規グループの作成
- 4-2 Workspace Mobility利用者用 ユーザアカウントの追加
- 4-3 Workspace Mobility管理用 アカウントの作成

## **5 Exchangeサーバ2010 の設定**

- 5-1 メールアクセス設定確認
- 5-2 EWSアクセス許可の確認

## **6 Exchangeサーバ2013 の設定**

- 6-1 メールアクセス設定確認
- 6-2 EWSアクセス許可の確認

## **7 Exchange Online(Office 365)の設定**

- 7-1 EWSアクセス許可の確認

## **8 DNSサーバの設定**

# 1. はじめに

## 1-1 本書の目的

Workspace Mobilityでは、ユーザの認証にActive Directoryサーバ（以下、ADサーバ）を利用します。

また、メール等の同期にはExchangeサーバ又はExchange Online（Office365）を利用します。Workspace Mobilityを利用する上では、このADサーバ、Exchangeサーバは必須となりますので、お客さま準備のADサーバ、Exchangeサーバにおける事前設定をお願いいたします。

本書は、ADサーバ及びExchangeサーバを利用する際の設定手順について記載しています。Workspace Mobilityサーバ（以下WSサーバ）を利用する上で、必要に応じてクライアントポリシーの変更等を行います。上記以外の内容については別添の「Workspace Mobility システム管理者向け管理コンソールガイド」をご確認ください。

なお、管理コンソールにログインするためには、お客様側所有のDNSを利用します。名前解決の設定方法には本書の設定手順を参考にしてください。

## 1-2 注意事項

お客さま準備のADサーバ、Exchangeサーバで認証管理やメール等の同期を行う関係上、本書に記載の内容については、動作の保障は致しかねます。

また、お客さま準備のADサーバ及び、Exchangeサーバ自体の動作検証については、サポート対象外となります。

下記注意事項を参照の上、適切な作業を実施ください。

- ・お客さま環境によっては本マニュアルの通りに設定が出来ない場合があります。
- ・設定変更を行う前にバックアップを取得し、不具合が発生した際に元の状態に復旧できるようにご準備ください。
- ・お客さまのネットワーク環境(帯域、遅延)によってはWorkspace Mobilityの動作遅延や利用不可となるような場合があります。

## 1-3 システム構成イメージ

- オンプレミスADサーバ／Exchangeサーバを利用する場合
- オンプレミスADサーバ／Exchange Online(Office365)を利用する場合

## 2. 導入準備

### 1 : ADサーバ及びExchangeサーバ要件

以下の条件を満たしたADサーバ、Exchangeサーバを準備して頂く必要があります。

#### ■ ADサーバの条件

- ・Windows Server 2008R2または、Windows Server 2012R2がインストールされているサーバでADサーバ(Active Directory Domain Serviceの機能を所有しているサーバ)の機能レベルがWindows server 2008以上であること

#### ■ Exchangeサーバ及びExchange Online(Office 365)の条件

##### ▽ Exchangeサーバ

- ・Exchange Server 2010または2013を利用し、上記ADサーバで認証処理をしていること

##### ▽ Exchange Online(Office 365)

- ・セキュリティ強化のため、お客様側にてActive Directory Federation Service (ADFS)を使用の上、IPアドレス制限設定にてWorkspace MobilityからのIPアドレス許可を設定すること。
- ・本サービスにて利用するお客様Active DirectoryとOffice365のアカウントが同期されていること。
- ・ADサーバとOffice365のUPN、PWが完全一致していること。
- ・Microsoft Office365は、お客様側で常に最新バージョンにアップデートをお願いします。

### 2 : 通信要件

Workspaceサーバ（以下WSサーバ）との通信に必要な以下のポートについて、ADサーバ、Exchangeサーバ、お客様Webサーバ及び経路上のネットワークにて通信可能な状態とする必要があります。

対象サーバ	利用用途	プロトコル	From	To	ポート番号
ADサーバ	Global Address Book	TCP	WSサーバ	ADサーバ	3268
	LDAP	TCP	WSサーバ	ADサーバ	389
Exchangeサーバ	Exchangeサーバ (http/https)	TCP	WSサーバ	Exchangeサーバ	80 または 443
	Exchangeサーバ (https)	TCP	WSサーバ	Exchange Online	443
DNSサーバ	名前解決	TCP	App Boxサーバ	お客様DNSサーバ	53
お客様Webサーバ	Web閲覧	TCP	App Boxサーバ	お客様Webサーバ	お客様Webサーバの任意のhttp/https待受けポート番号

## 3. ADサーバ(Windows Server 2008R2)の設定

ADサーバのOSがWindows Server 2008R2の場合は、以下の手順を実施ください。  
また、Exchange Online(Office 365)をご利用の場合も、以下の手順を実施ください。

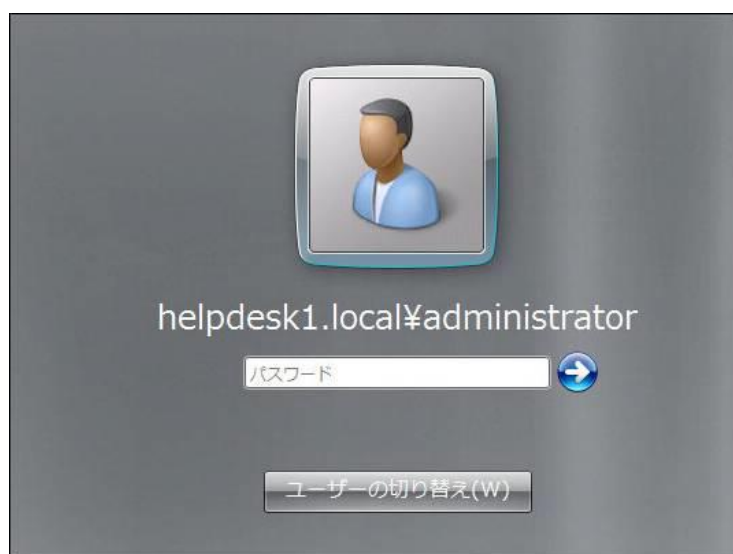
### 3-1 : Workspace Mobility利用者用 新規グループの作成

Workspace Mobilityの利用者用グループを作成します。  
次の手順で下記 3 つのグループを作成してください。

グループ名	詳細
DME_Admin	システム全体の管理者権限を持っているグループ
DME__Superuser	Adminが指定したグループに対しての管理権限を持っているグループ
DME_User	Workspace Mobilityを利用するユーザーグループ

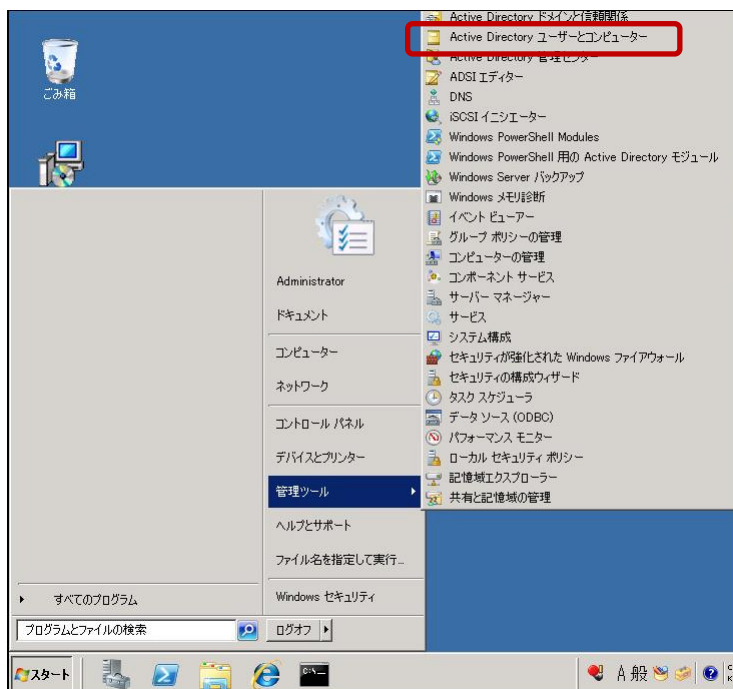
【重要】新規作成するグループ名は、英字の大文字・小文字にご注意ください。

①ADサーバへ、管理者用‘アカウント’と‘パスワード’を入力し、ログインします。

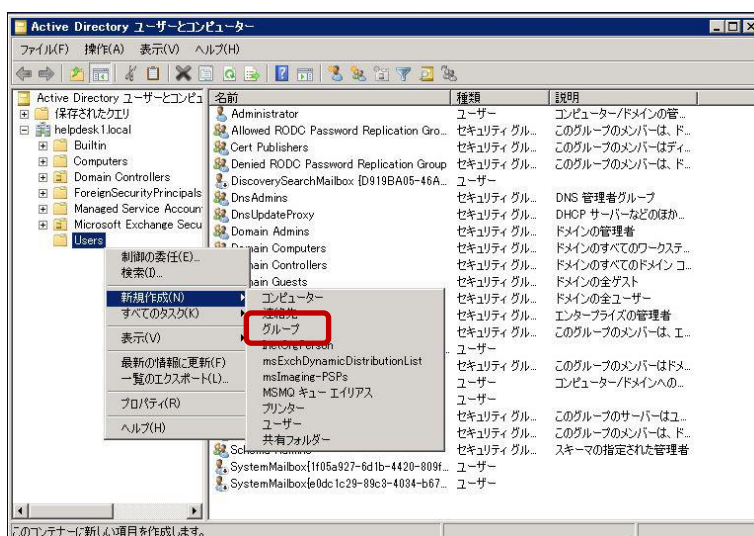


※ドメイン名及びアカウント名「helpdesk1.local¥administrator」は例です。

②「デスクトップ」画面が表示されますので、「スタート」->「管理ツール」->「Active Directoryのユーザーとコンピューター」の順番でクリックします。

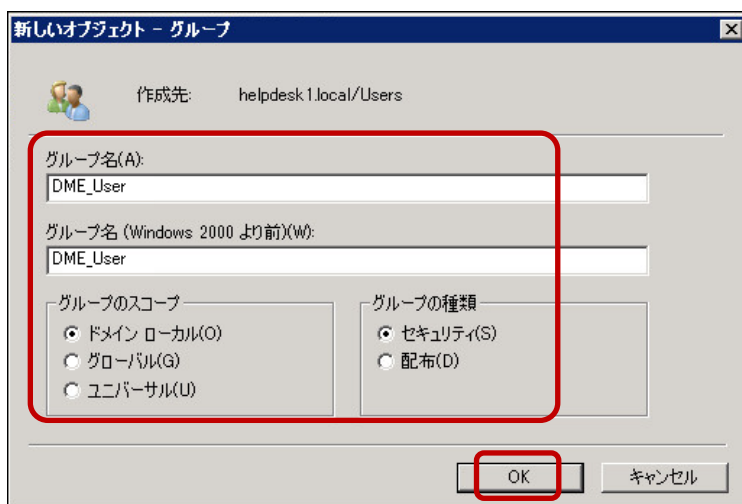


③「Active Directoryのユーザーとコンピューター」画面が表示されますので、オンプレミス環境「対象ドメイン」配下にあります「Users」で右クリックし、コンテキストメニューより「新規作成(N)」->「グループ」の順番でクリックします。



- ④「新しいオブジェクト」画面が表示されますので、「グループ名(A)」及び「グループのスコープ」及び「グループの種類」について、下記情報を参照の上、'値'を入力または選択し、「OK」をクリックします。

項目名	説明
グループ名 (A)	DME_User
グループのスコープ	ドメインローカル (O)
グループの種類	セキュリティ (S)

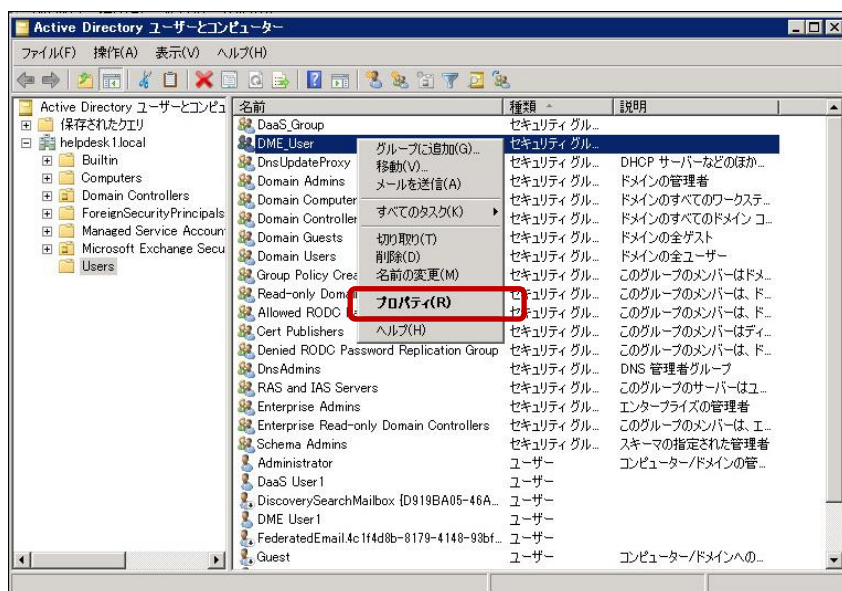


同様の手順で、「DME\_Superuser」と「DME\_Admin」についても新規グループとして作成します。  
以上で、新規グループの作成は完了です。

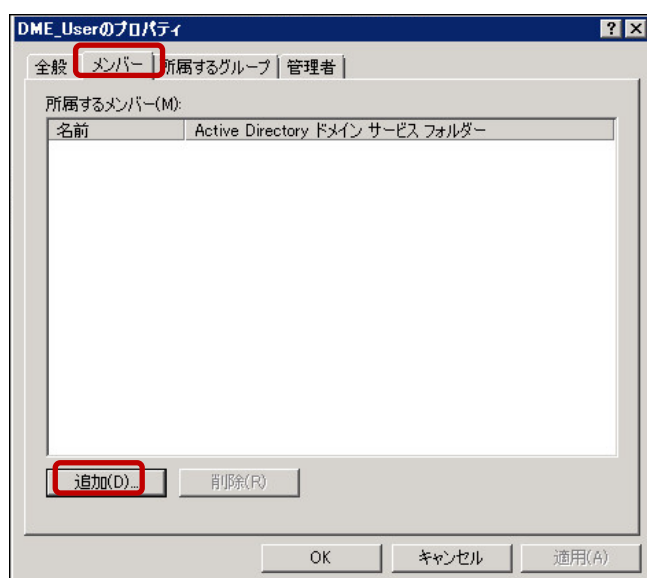
## 3-2 : Workspace Mobility利用者用 ユーザーアカウントの追加

Workspace Mobilityを利用するユーザのアカウントを、前項目で作成したグループに追加します。

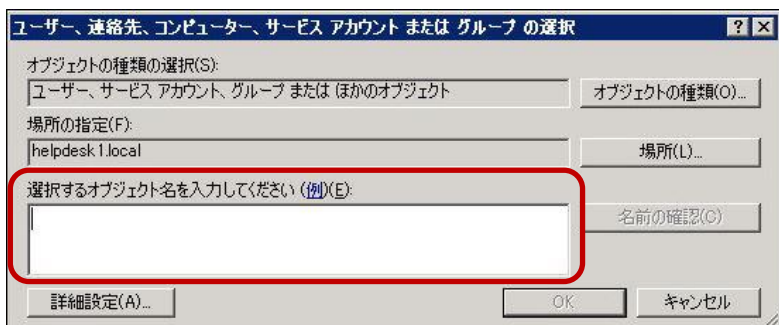
- ① 前項3-1 で作成した対象のグループ「DME\_User」で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティ(R)」をクリックします。



- ② 対象グループ「DME\_Userのプロパティ」画面が表示されますので、「メンバー」のタブをクリックの上、「追加(D)」をクリックします。

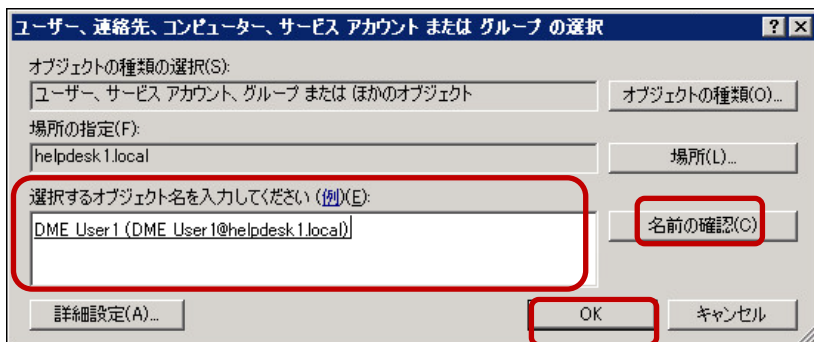


- ③ 「ユーザー、連絡先、コンピューター、サービスアカウントまたはグループの選択」画面が表示されます。対象者の「アカウント名(オブジェクト名)」を入力します。

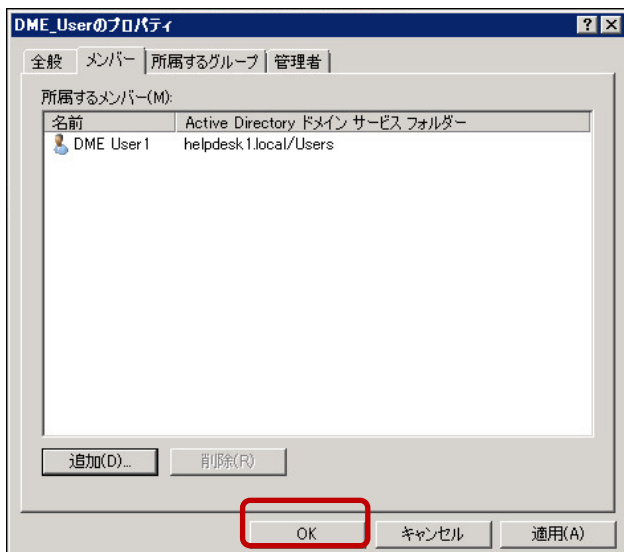


【参考】対象者のアカウント名が不明の場合は、「詳細設定(A)」をクリックして、アカウント名の検索をすることが可能

- ④ 対象のアカウント名を入力後、「名前の確認(C)」をクリックし、アカウント名が下線を含んだ表示になりましたら、「OK」をクリックします。



- ⑤ 追加した、対象のアカウントが含まれていることを確認し、「OK」をクリックします。

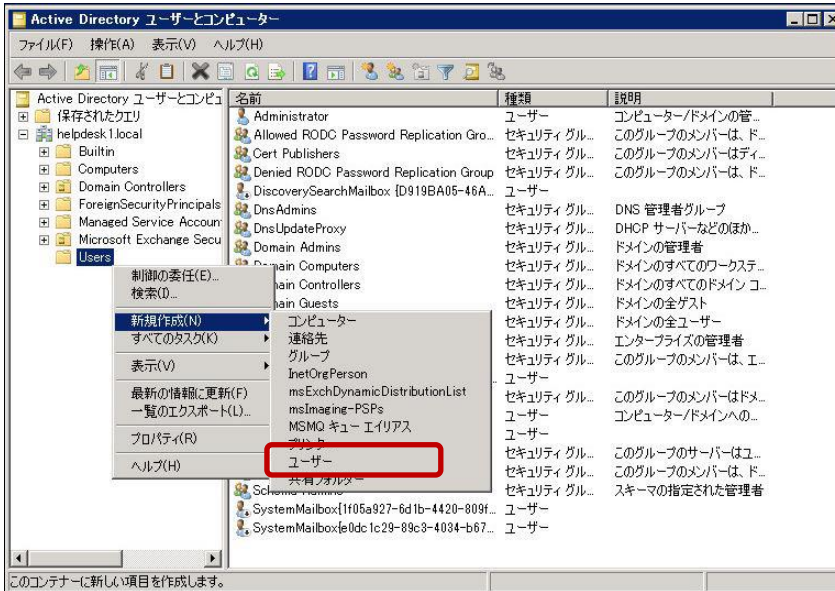


以上で、ユーザアカウントの追加は完了です。

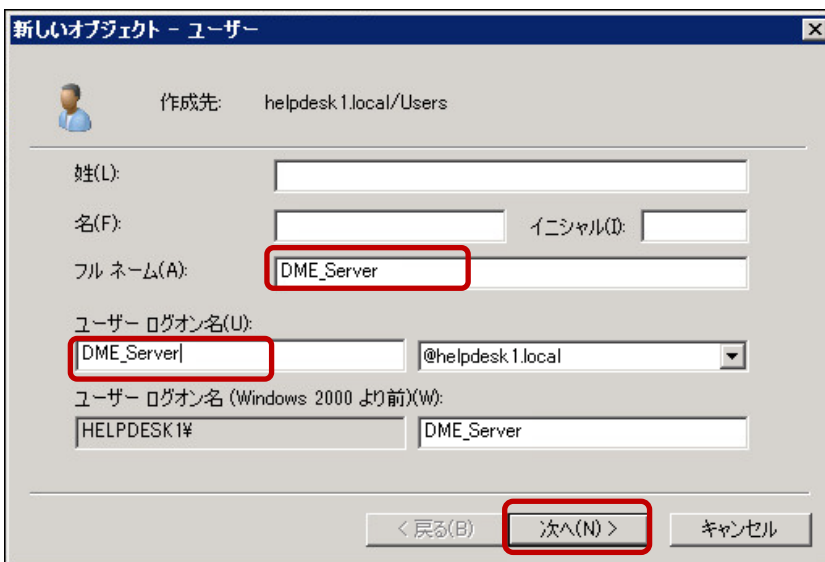
### 3-3 : Workspace Mobilityシステム管理者用 アカウントの作成

Workspace MobilityとADサーバが連携動作するために必要な管理用アカウントを新規で作成します。

- ① 「対象ドメイン」配下の「Users」で右クリックし、コンテキストメニューより「新規作成(N)」->「ユーザー」の順番でクリックします。



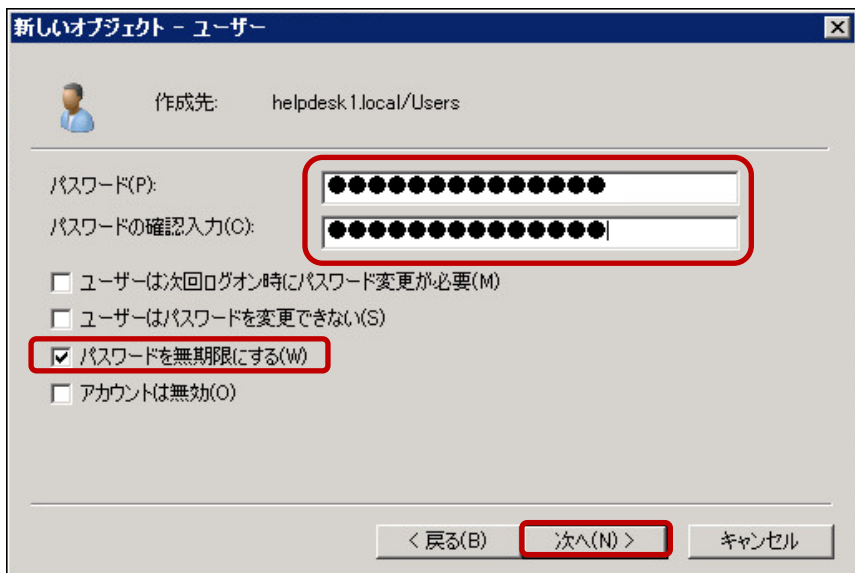
- ② 「新しいオブジェクト」画面が表示されますので、「フルネーム(A)」及び「ユーザーログオン名(U)」へ「DME\_Server」をそれぞれ入力し、「次へ(N)」をクリックします。



【重要】 ユーザーログオン名は、英字の大文字・小文字にご注意ください。

- ③ 次に、「パスワード(P)」及び「パスワードの確認入力(C)」へ「任意のパスワード」をそれぞれ入力し、「パスワードを無期限にする(W)」にチェックを入れ、「次へ(N)」をクリックします。

【重要】パスワードは必ず、「パスワードを無期限にする(W)」を設定してください。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: helpdesk1.local/Users

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

☐ ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要(M)

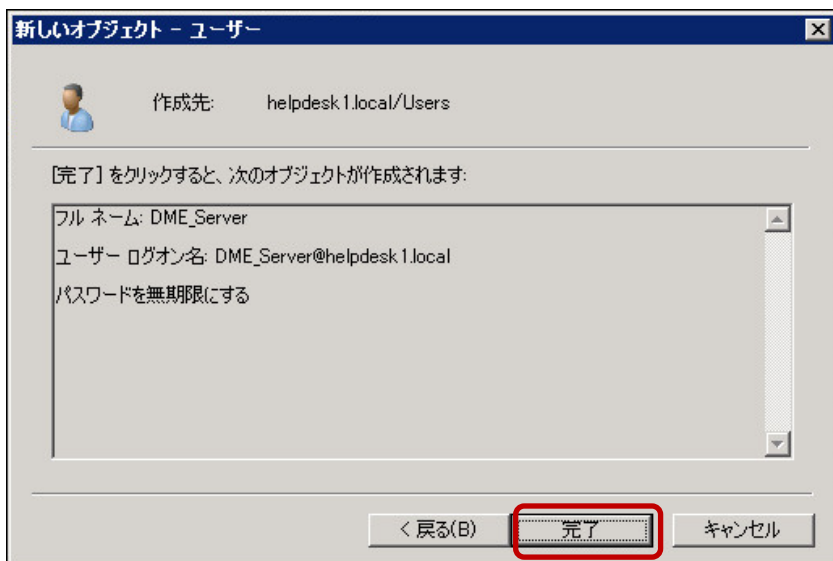
☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☒ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

- ④ 最後に、登録内容に間違いが無いことを確認の上、「完了」をクリックします。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: helpdesk1.local/Users

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フル ネーム: DME\_Server

ユーザー ログイン名: DME\_Server@helpdesk1.local

パスワードを無期限にする

< 戻る(B)    完了    キャンセル

以上で、システム管理者用の新規アカウントの作成は完了です。

## 4. ADサーバ(Windows Server 2012R2)の設定

ADサーバのOSがWindows Server 2012R2の場合は、以下の手順を実施ください。

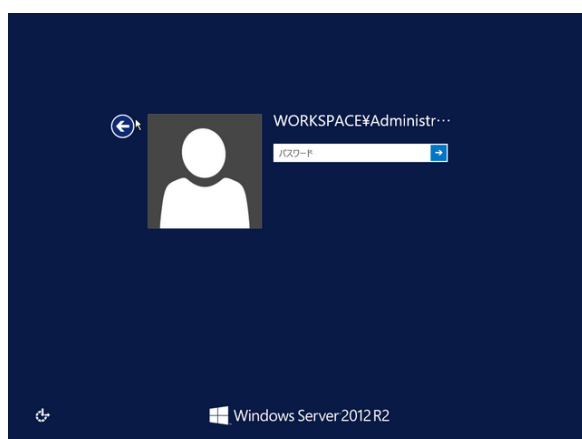
### 4-1 : Workspace Mobility利用者用 新規グループの作成

Workspace Mobilityの利用者用グループを作成します。  
次の手順で下記 3 つのグループを作成してください。

グループ名	詳細
DME_Admin	システム全体の管理者権限を持っているグループ
DME_Superuser	Adminが指定したグループに対しての管理権限を持っているグループ
DME_User	Workspace Mobilityを利用するユーザーグループ

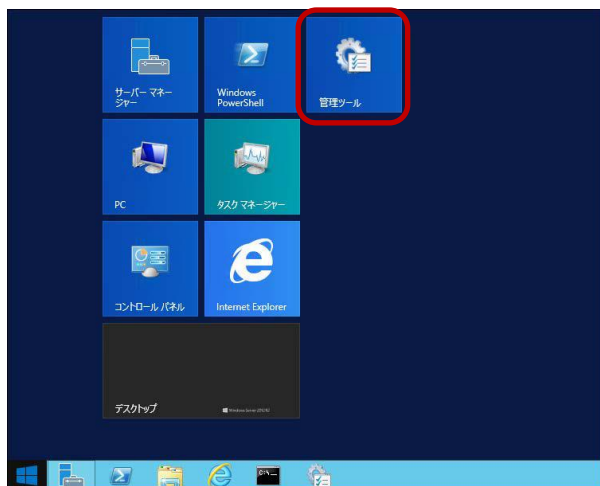
【重要】新規作成するグループ名は、英字の大文字・小文字にご注意ください。

①ADサーバへ、管理者用「アカウント」と「パスワード」を入力し、ログインします。

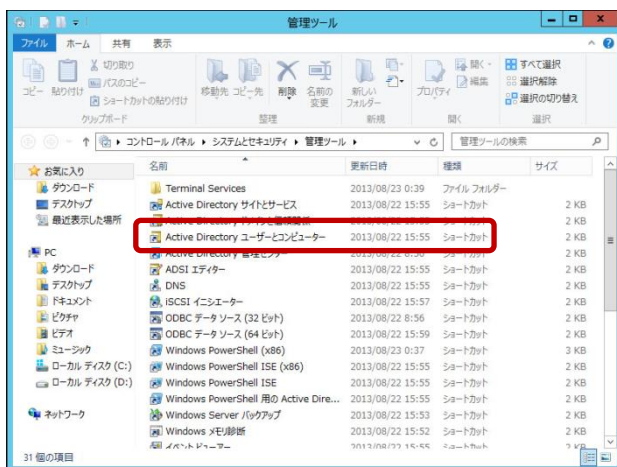


※ドメイン名及びアカウント名「WORKSPACE¥Administrator」は例です。

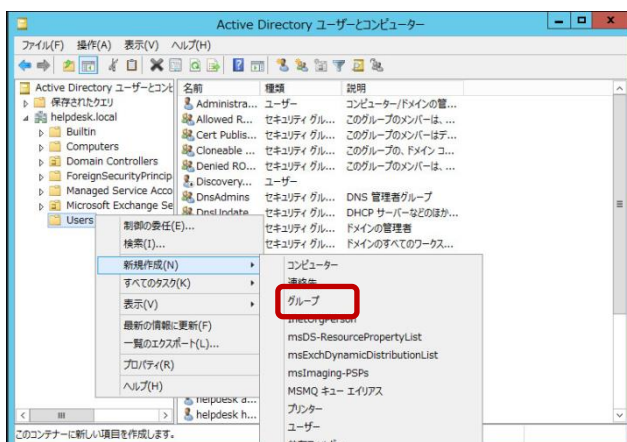
② 「デスクトップ」画面が表示されますので、「スタート」->「管理ツール」の順番でクリックします。



③ 「管理ツール」画面が表示されますので、「Active Directoryのユーザーとコンピューター」をダブルクリックします。




④ 「Active Directoryのユーザーとコンピューター」画面が表示されますので、「対象ドメイン」配下にある「Users」で右クリックし、コンテキストメニューより「新規作成(N)」->「グループ」の順番でクリックします。



- ⑤「新しいオブジェクト」画面が表示されますので、「グループ名(A)」及び「グループのスコープ」及び「グループの種類」について、下記情報を参照の上、'値'を入力または選択し、「OK」をクリックします。

項目名	説明
グループ名 (A)	DME_User
グループのスコープ	ドメインローカル (O)
グループの種類	セキュリティ (S)



新しいオブジェクト - グループ

作成先: helpdesk.local/Users

グループ名(A):  
DME\_User

グループ名 (Windows 2000 より前)(W):  
DME\_User

グループのスコープ

- ☒ ドメイン ローカル(O)
- ☐ グローバル(G)
- ☐ ユニバーサル(U)

グループの種類

- ☒ セキュリティ(S)
- ☐ 配布(D)

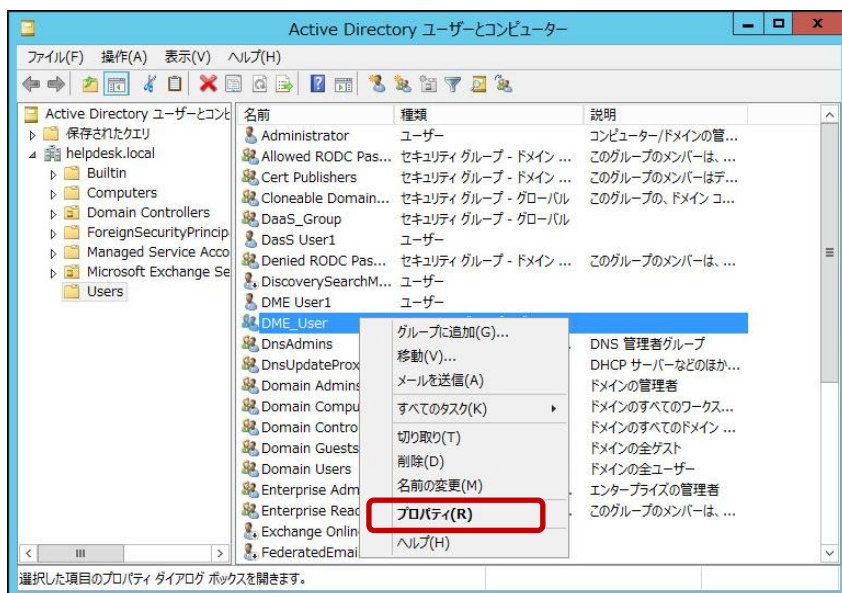
OK キャンセル

同様の手順で、「DME\_Superuser」と「DME\_Admin」についても新規グループとして作成します。  
以上で、新規グループの作成は完了です。

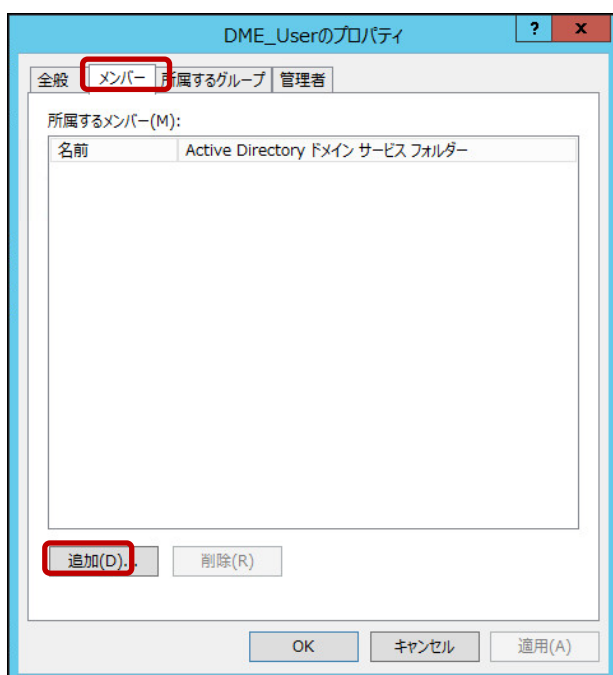
## 4-2 : Workspace Mobility利用者用 ユーザーアカウントの追加

Workspace Mobilityを利用するユーザのアカウントを、前項目で作成したグループに追加します。

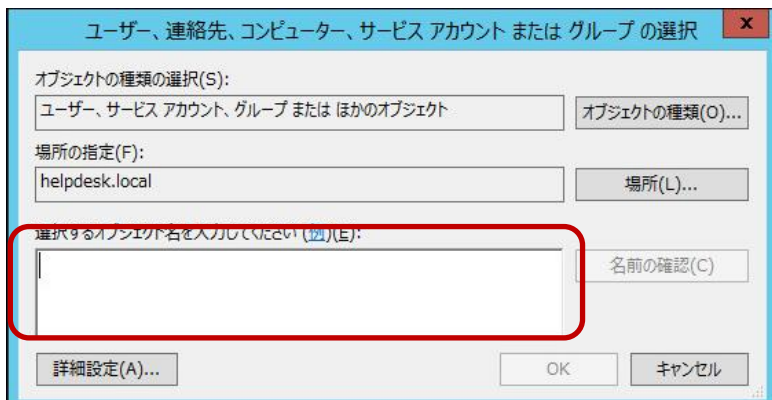
- ① 前項4-1 で作成した対象のグループ「DME\_User」で右クリックし、コンテキストメニューより「プロパティ(R)」をクリックします。



- ② 対象グループ「DME\_Userのプロパティ」画面が表示されますので、「メンバー」のタブをクリックの上、「追加(D)」をクリックします。

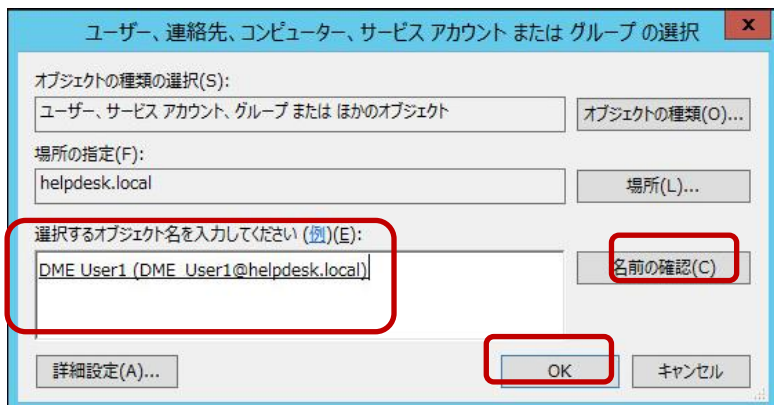


- ③ 「ユーザー、連絡先、コンピューター、サービスアカウントまたはグループの選択」画面が表示されます。対象者の「アカウント名(オブジェクト名)」を入力します。

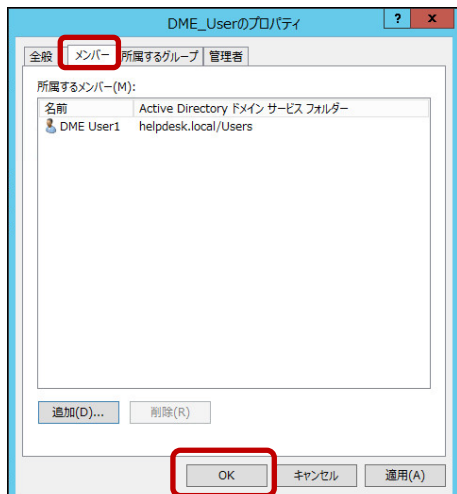


【参考】対象者のアカウント名が不明の場合は、「詳細設定(A)」をクリックして、アカウント名の検索をすることが可能

- ④ 対象のアカウント名を入力後、「名前を確認(C)」をクリックし、アカウント名が下線を含んだ表示になりましたら、「OK」をクリックします。(※オブジェクト名は参考例です)



- ⑤ 追加した、対象のアカウントが含まれていることを確認し、「OK」をクリックします。

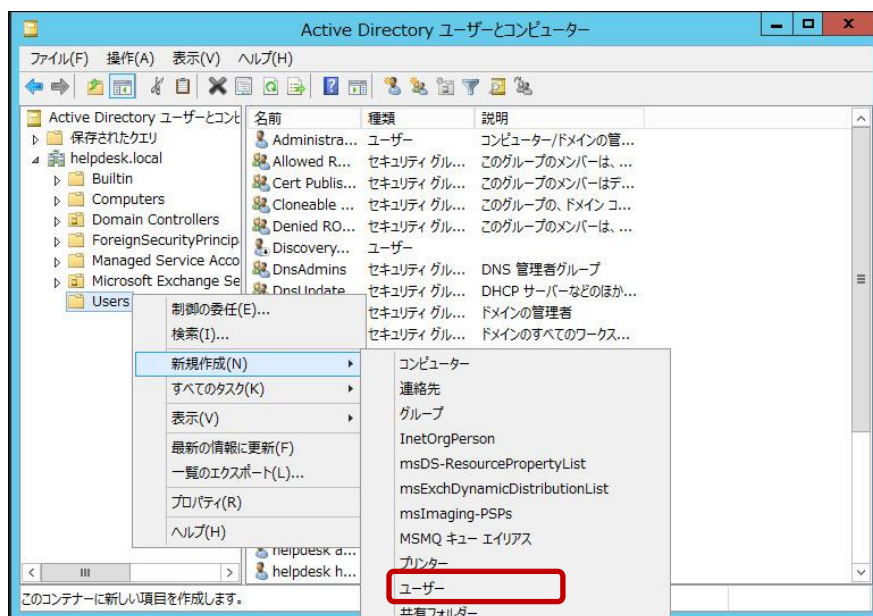


以上で、ユーザアカウントの追加は完了です。

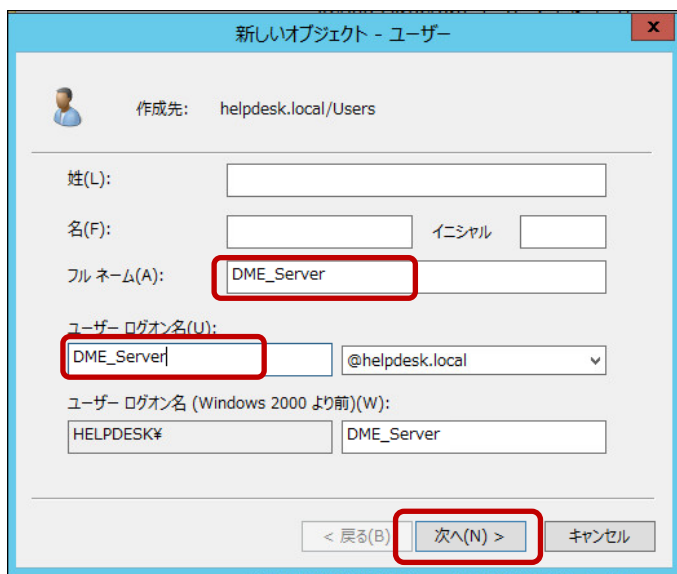
## 4-3 : Workspace Mobilityシステム管理者用 アカウントの作成

Workspace MobilityとADサーバが連携動作するために必要な管理用アカウントを新規で作成します。

- ① 「対象ドメイン」配下の「Users」で右クリックし、コンテキストメニューより「新規作成(N)」->「ユーザー」の順番でクリックします。




- ② 「新しいオブジェクト」画面が表示されますので、「フルネーム(A)」及び「ユーザーログオン名(U)」へ「DME\_Server」をそれぞれ入力し、「次へ(N)」をクリックします。



**【重要】** ユーザーログオン名は、英字の大文字・小文字にご注意ください。

- ③ 次に、「パスワード(P)」及び「パスワードの確認入力(C)」へ「任意のパスワード」をそれぞれ入力し、「パスワードを無期限にする(W)」にチェックを入れ、「次へ(N)」をクリックします。

【重要】パスワードは必ず、「パスワードを無期限にする(W)」を設定してください。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: helpdesk.local/Users

パスワード(P):

パスワードの確認入力(C):

☐ ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要(M)

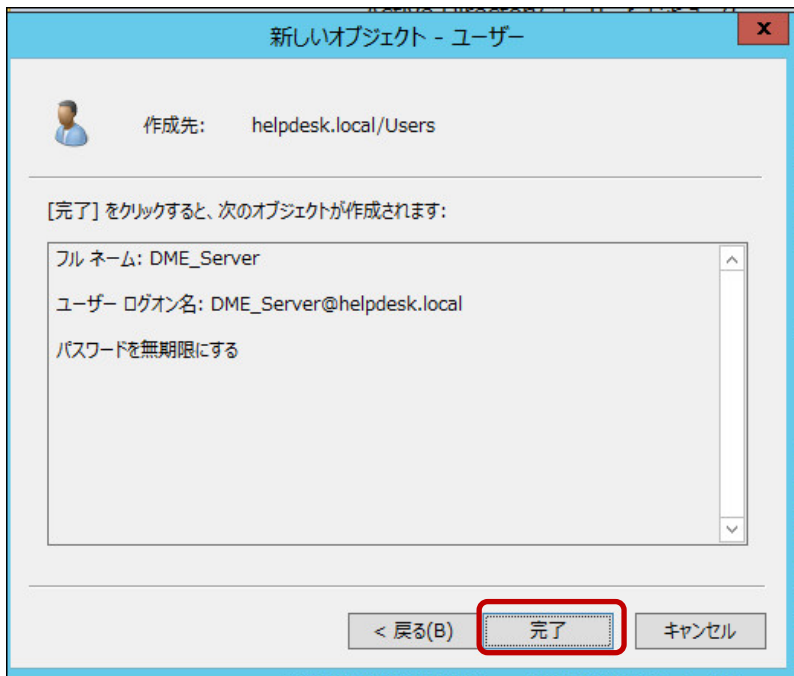
☐ ユーザーはパスワードを変更できない(S)

☒ パスワードを無期限にする(W)

☐ アカウントは無効(O)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- ④ 最後に、登録内容に間違いが無いことを確認の上、「完了」をクリックします。



新しいオブジェクト - ユーザー

作成先: helpdesk.local/Users

[完了] をクリックすると、次のオブジェクトが作成されます:

フル ネーム: DME\_Server

ユーザー ログオン名: DME\_Server@helpdesk.local

パスワードを無期限にする

< 戻る(B) **完了** キャンセル

以上で、システム管理者用の新規アカウントの作成は完了です。

## 5. Exchangeサーバ2010 の設定

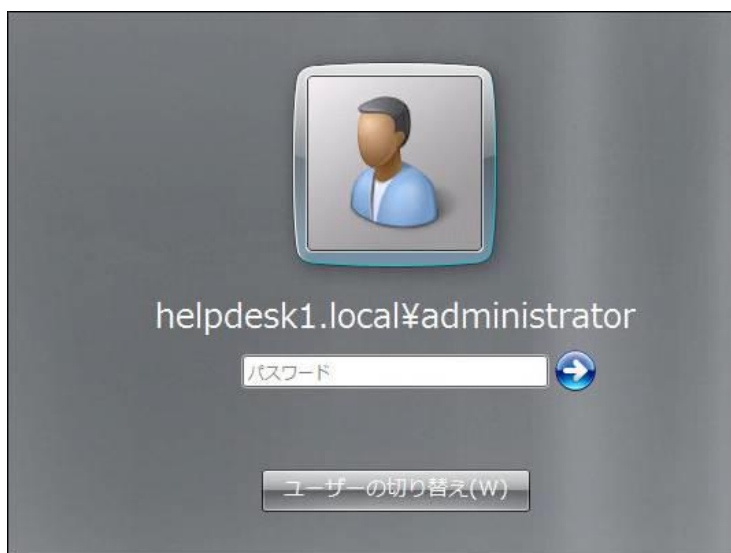
ExchangeサーバのVersionが2010の場合は、以下の手順を実施ください。

### 5-1 : メールアクセス設定確認

WSサーバとExchangeサーバが連携するには、EWS(Exchange Web Services)への匿名アクセス設定が必要になるため、以下の設定を行います。

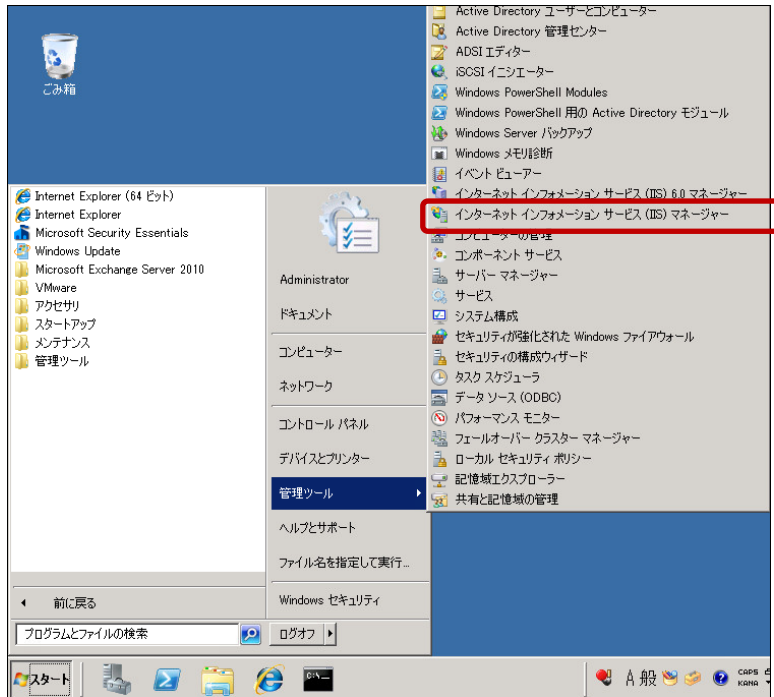
ここでは、例としてOS(Windows Server 2008R2)を利用します。

- ①Exchangeサーバへ、管理者用‘アカウント’と‘パスワード’を入力し、ログインします。



※ドメイン名及びアカウント名「helpdesk1.local¥administrator」は例です。

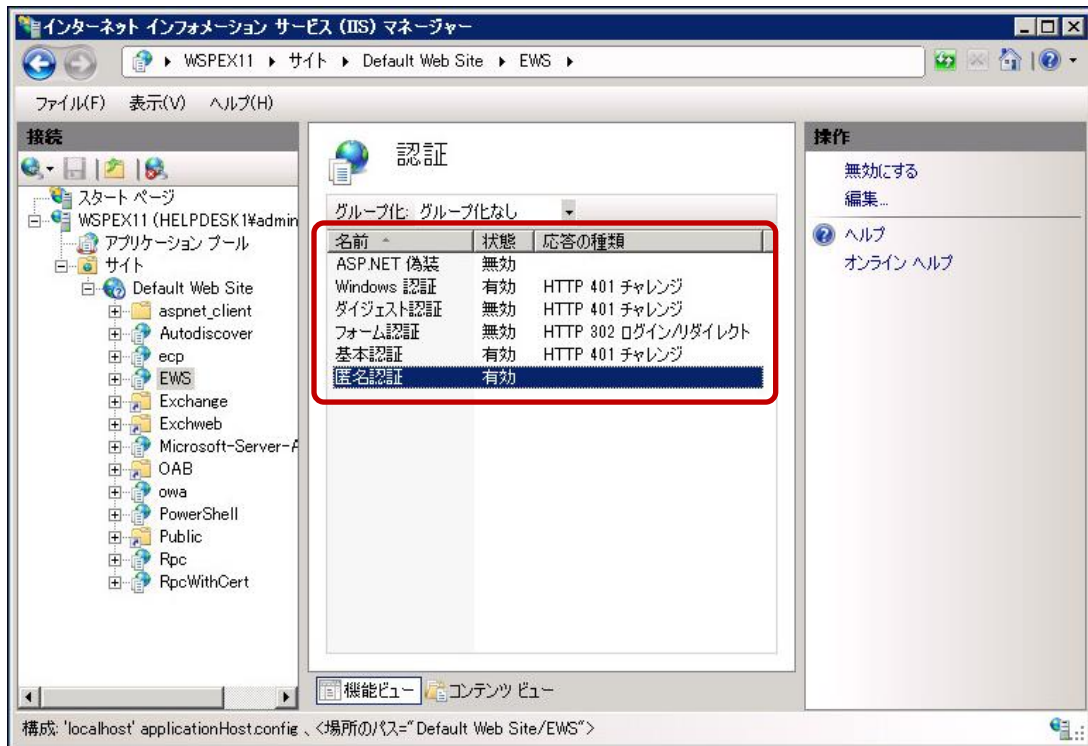
- ②「デスクトップ」画面が表示されますので、「スタート」->「管理ツール」->「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」の順番でクリックします。



- ③「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」画面が表示されますので、「Exchange サーバ名」->「サイト」->「Default Web Site」->「EWS」->「認証」の順番でダブルクリックします。



- ④ 「認証」画面が表示されますので、「匿名認証」を「有効」にしてください。  
次に、お客様のセキュリティポリシーにあわせて「Windows認証」または「基本認証」を「有効」にしてください。  
また、設定変更後は、必ずIISを再起動してください。



## 5-2 : EWSアクセス許可の確認

WSサーバがEWS(Exchange Web Services)経由でExchangeサーバにアクセスできることを確認します。

- ① 任意のブラウザを利用して以下のURLにアクセスしてください。

<https://<ExchangeサーバのIPアドレス>/owa>

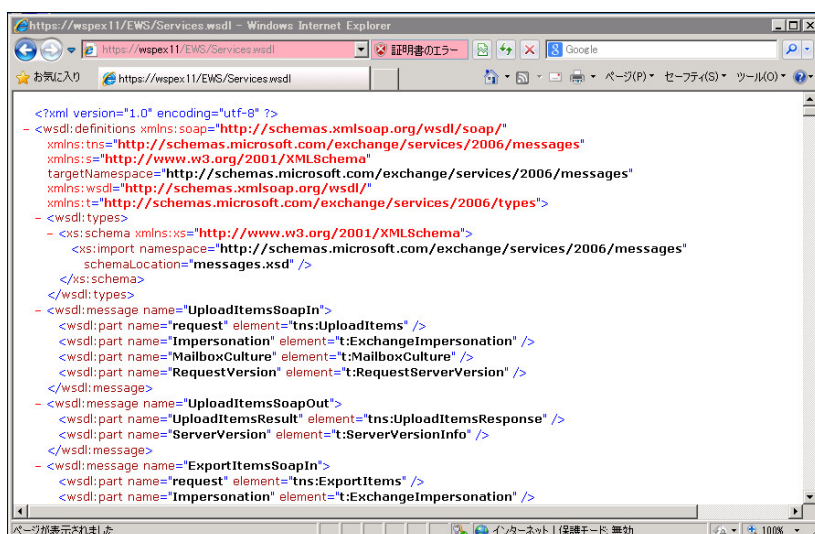
下記の画面「Outlook Web App」が表示されることを確認してください。



- ② 同様に下記のURLにアクセスしてください。

<https://<ExchangeサーバのIPアドレス>/EWS/Services.wsdl>

下記の画面「XML情報」が表示されることを確認してください。  
(設定により、ユーザIDとパスワードの入力が必要になる場合があります)



以上で、EWSアクセス許可の確認は完了です。

## 6. Exchangeサーバ2013 の設定

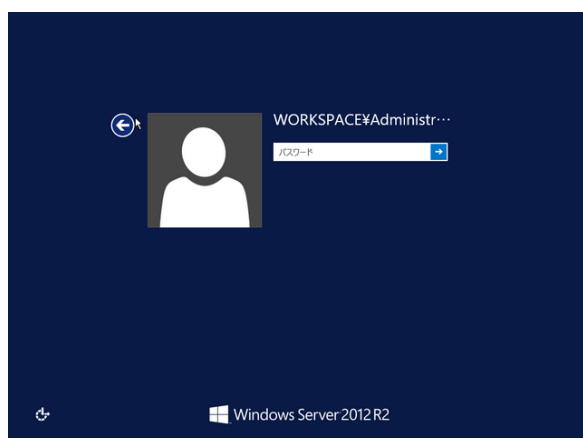
ExchangeサーバのVersionが2013の場合は、以下の手順を実施ください。

### 6-1 : メールアクセス設定確認

WSサーバとExchangeサーバが連携するには、EWS(Exchange Web Services)への匿名アクセス設定が必要になるため、以下の設定を行います。

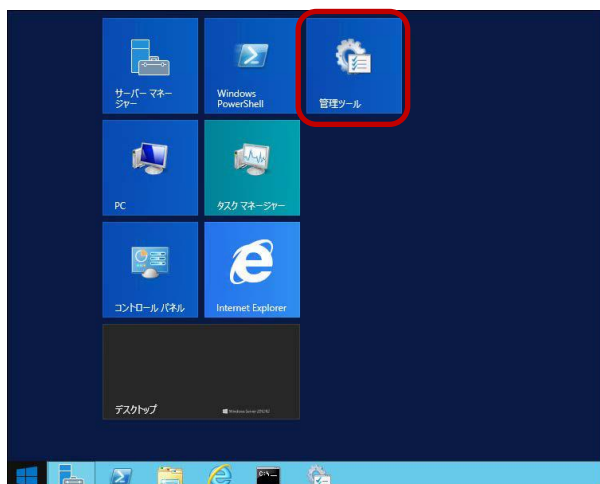
ここでは、例としてOS(Windows Server 2012R2)を利用します。

- ①Exchangeサーバへ、管理者用「アカウント」と「パスワード」を入力し、ログインします。

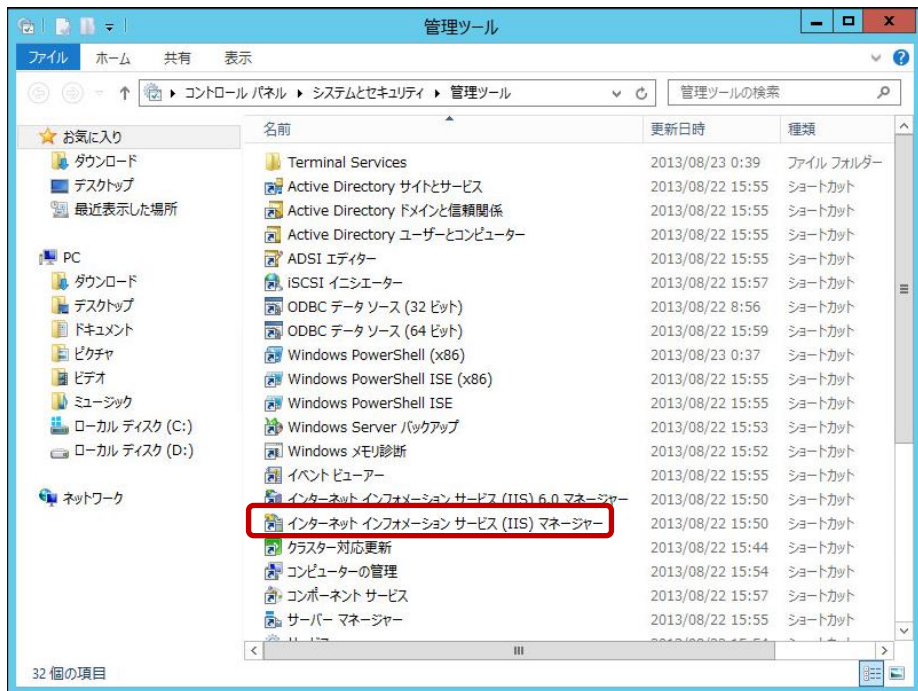


※ドメイン名及びアカウント名「WORKSPACE¥Administrator」は例です。

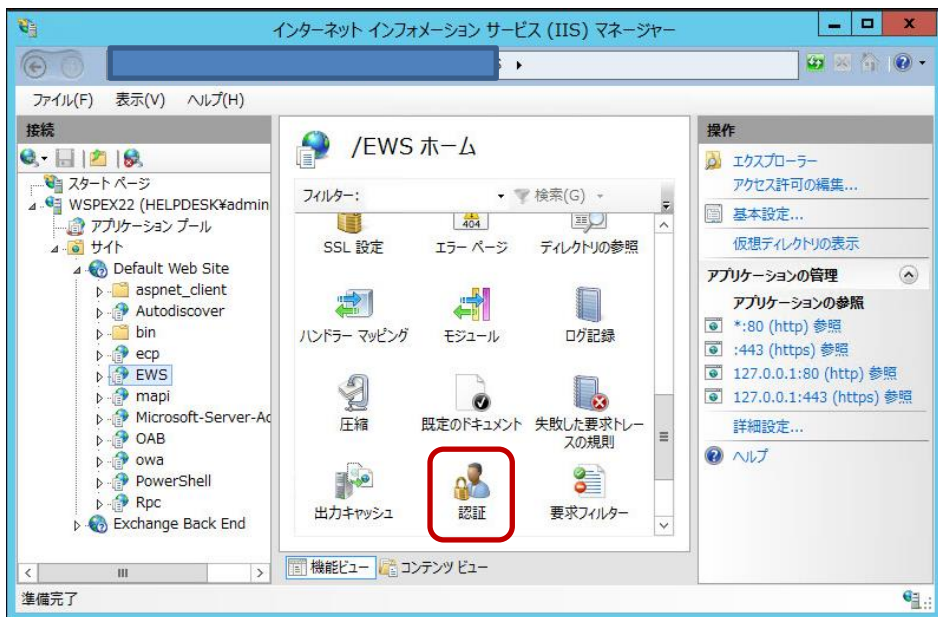
- ②「デスクトップ」画面が表示されますので、「スタート」->「管理ツール」の順番でクリックします。



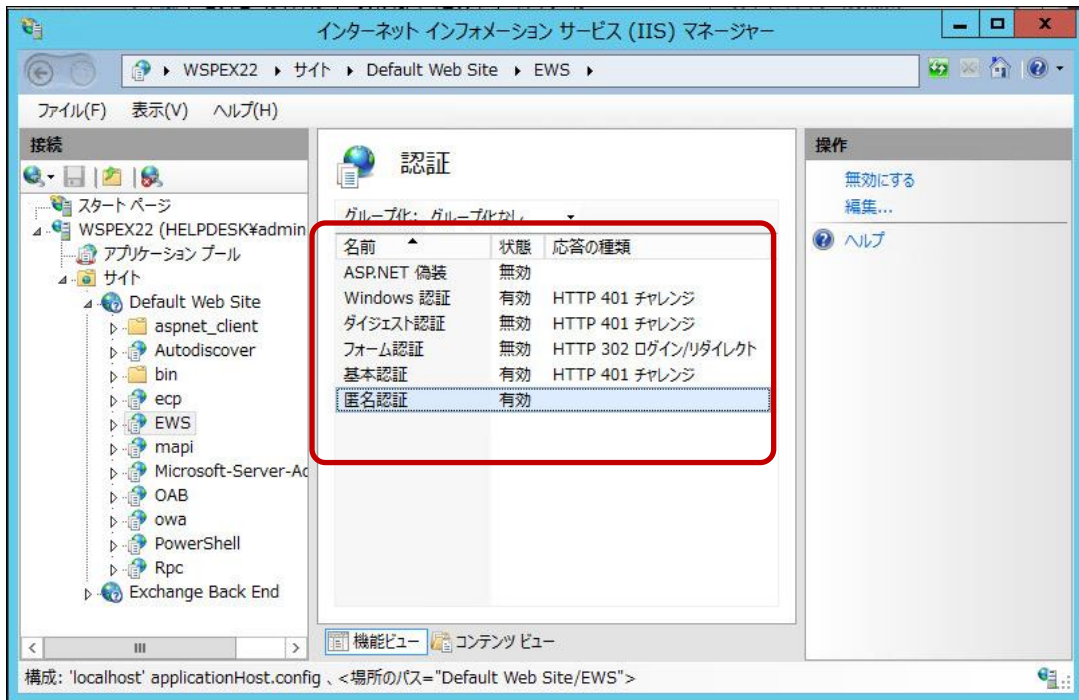
- ③ 「管理ツール」画面が表示されますので、「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」の順番でクリックします。



- ④ 「インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー」画面が表示されますので、「Exchange サーバ名」->「サイト」->「Default Web Site」->「EWS」->「認証」の順番でダブルクリックします。



- ④ 「認証」画面が表示されますので、「匿名認証」を「有効」にしてください。  
次に、お客様のセキュリティポリシーにあわせて「Windows認証」または「基本認証」を「有効」にしてください。  
また、設定変更後は、必ずIISを再起動してください。



以上で、メールアクセス設定確認は完了です。

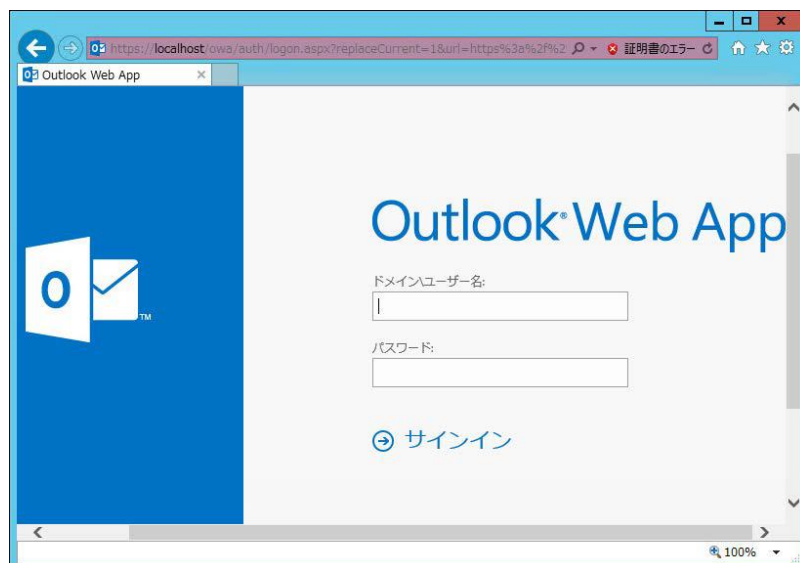
## 6-2 : EWSアクセス許可の確認

WSサーバがEWS(Exchange Web Services)経由でExchangeサーバにアクセスできることを確認します。

- ① 任意のブラウザを利用して以下のURLにアクセスしてください。

<https://<ExchangeサーバのIPアドレス>/owa>

下記の画面「Outlook Web App」が表示されることを確認してください。

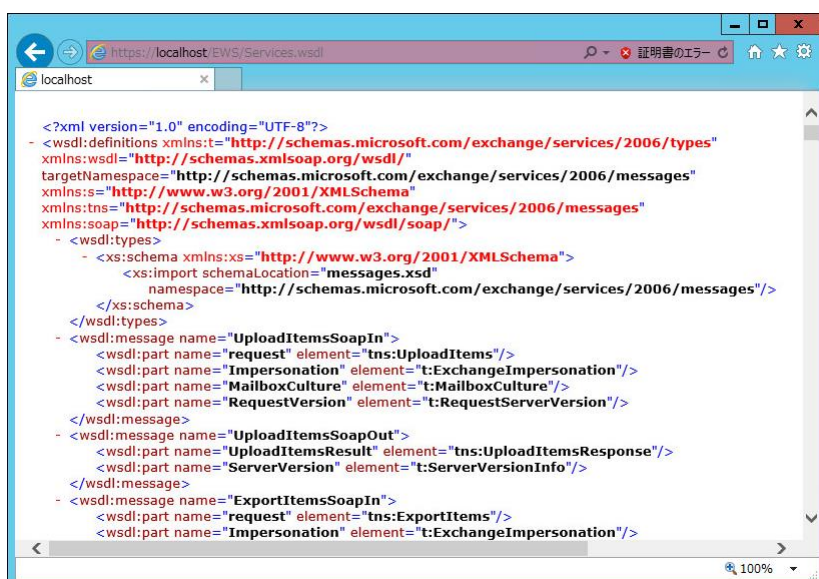


- ② 同様に下記のURLにアクセスしてください。

<https://<ExchangeサーバのIPアドレス>/EWS/Services.wsdl>

下記の画面「XML情報」が表示されることを確認してください。

(設定により、ユーザIDとパスワードの入力が必要になる場合があります)



以上で、EWSアクセス許可の確認は完了です。

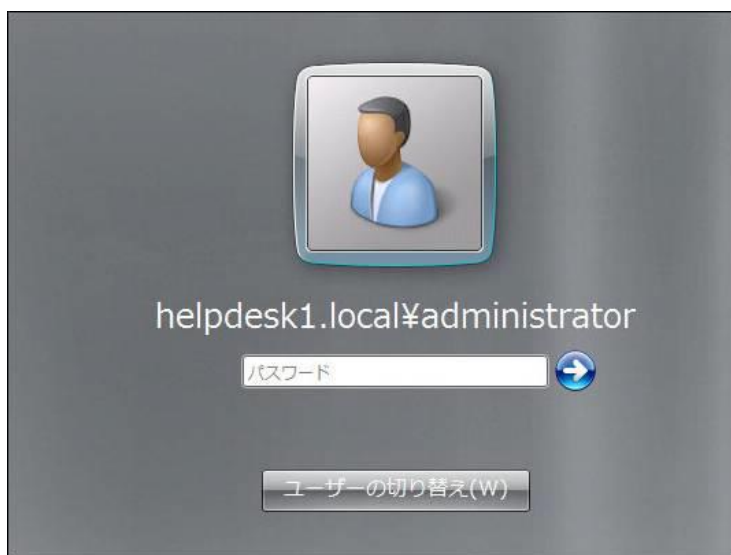
## 7. Exchange Online (Office365) の設定

Exchange OnlineサーバのVersionが2013の場合は、以下の手順を実施ください。

### 7-1 : EWSアクセス許可の確認

セキュアコンテナサーバがEWS(Exchange Web Services)経由でExchange Online(Office 365)にアクセスできることを任意のブラウザを利用して確認します。  
ここでは例としてADサーバ(Windows Server 2008R2)のIE(Internet Explorer)を利用します。

①Exchangeサーバへ、管理者用‘アカウント’と‘パスワード’を入力し、ログインします。

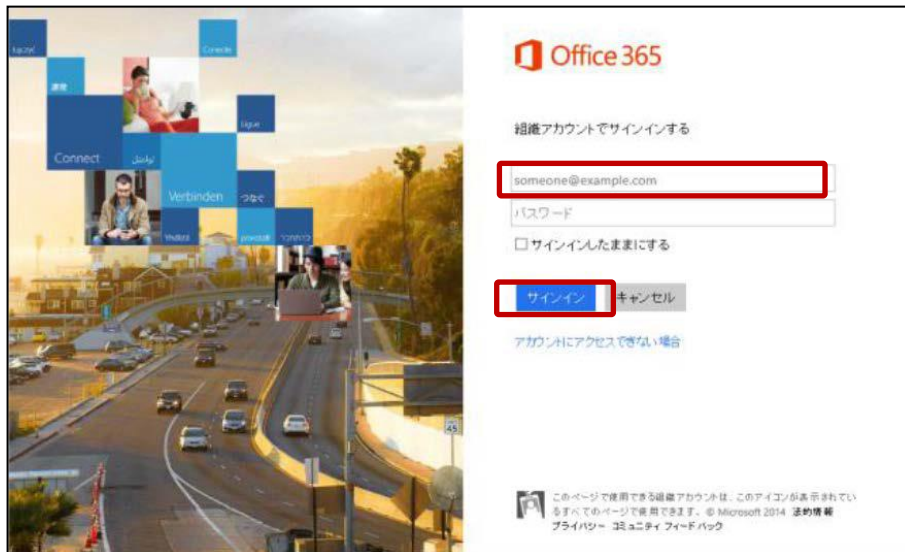


※ドメイン名及びアカウント名「helpdesk1.local¥administrator」は例です。

- ② 任意のブラウザを利用して以下のURLにアクセスしてください。  
<https://portal.microsoftonline.com>

「Office365のログイン画面」が表示されますので、登録済み「アカウント(アカウント名@ドメイン名)」を入力の上、「サインイン」をクリックします。


**【重要】**ここでは、シングルサインオン(ID フェデレーション)を利用していることを確認するため、パスワードは入力不要です。



- ③ 下記のようにAD FS用の認証処理が行われます。



- ④ 「オンプレミスADサーバの資格情報」(サインイン) 画面が表示されますので、「ユーザ名」へオンプレミスADドメインの「アカウント」を、「パスワード」へそのアカウントの「パスワード」を入力し、「サインイン」をクリックします。ここでは、ログインできることを確認してください。



- ⑤ 次にEWS(Exchange Web Services)確認のため、以下のURLにアクセスしてください。  
<https://outlook.office365.com/EWS/Services.wsdl>

下記の画面「XML情報」が表示されることを確認してください。  
(設定により、ユーザIDとパスワードの入力が必要になる場合があります)

```
This XML file does not appear to have any style information associated with it. The document tree is shown below.
<?xml:definitions xmlns:soap="http://schemas.xmlsoap.org/soap/" xmlns:tns="https://schemas.microsoft.com/exchange/services/2006/messages"
xmlns:x="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:rsd="http://schemas.xmlsoap.org/soap/" xmlns:types="http://schemas.microsoft.com/exchange/services/2006/types"
targetNamespace="http://schemas.microsoft.com/exchange/services/2006/messages">
  <rsd:types>
    <x:schema xmlns:x="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
      xmlns:import="http://schemas.microsoft.com/exchange/services/2006/messages" schemaLocation="messages.xsd"/>
    </x:schema>
  </rsd:types>
  <rsd:message name="UploadItemsSoapIn">
    <rsd:part name="request" element="tns:UploadItems"/>
    <rsd:part name="impersonation" element="t:ExchangeImpersonation"/>
    <rsd:part name="MailboxCulture" element="t:MailboxCulture"/>
    <rsd:part name="RequestVersion" element="t:RequestServerVersion"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="UploadItemsSoapOut">
    <rsd:part name="UploadItemsResult" element="tns:UploadItemsResponse"/>
    <rsd:part name="ServerVersion" element="t:ServerVersionInfo"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="ExportItemsSoapIn">
    <rsd:part name="request" element="tns:ExportItems"/>
    <rsd:part name="impersonation" element="t:ExchangeImpersonation"/>
    <rsd:part name="MailboxCulture" element="t:MailboxCulture"/>
    <rsd:part name="RequestVersion" element="t:RequestServerVersion"/>
    <rsd:part name="ManagementRole" element="t:ManagementRole"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="ExportItemsSoapOut">
    <rsd:part name="ExportItemsResult" element="tns:ExportItemsResponse"/>
    <rsd:part name="ServerVersion" element="t:ServerVersionInfo"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="ConvertIdSoapIn">
    <rsd:part name="request" element="tns:ConvertId"/>
    <rsd:part name="impersonation" element="t:ExchangeImpersonation"/>
    <rsd:part name="RequestVersion" element="t:RequestServerVersion"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="ConvertIdSoapOut">
    <rsd:part name="ConvertIdResult" element="tns:ConvertIdResponse"/>
    <rsd:part name="ServerVersion" element="t:ServerVersionInfo"/>
  </rsd:message>
  <rsd:message name="GetFolderSoapIn">
```

以上で、EWSアクセス許可の確認は完了です。

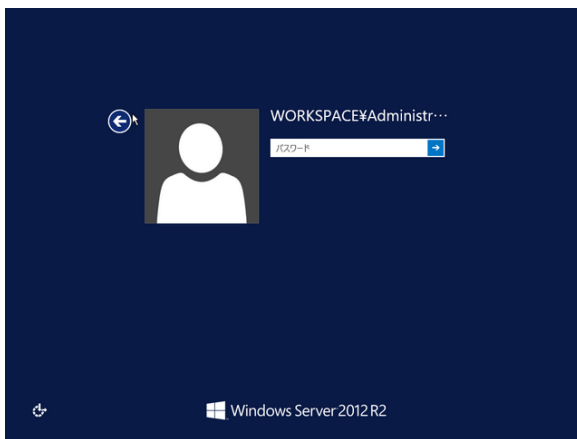
## 8. DNSの設定

本書ではWindows Server 2012R2を参考例として記載しています。

### 8-1 : 名前解決の設定

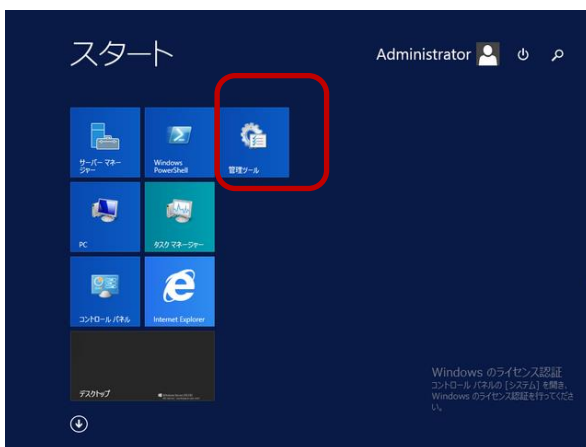
Workspaceの管理コンソールにログインアクセスするには、お客様DNSにて、Workspace Mobility用に払い出したIPアドレスの名前解決の設定が必要です。  
例としてOS(Windows Server 2012R2)を利用します。

- ①Exchangeサーバへ、管理者用「アカウント」と「パスワード」を入力し、ログインします。

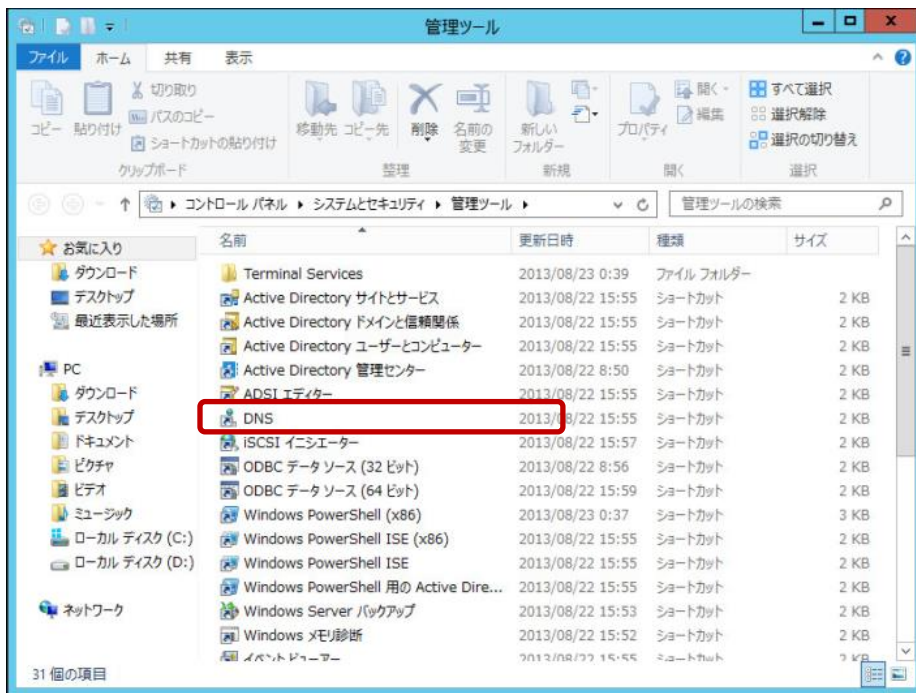


※ドメイン名及びアカウント名「WORKSPACE¥Administrator」は例です。

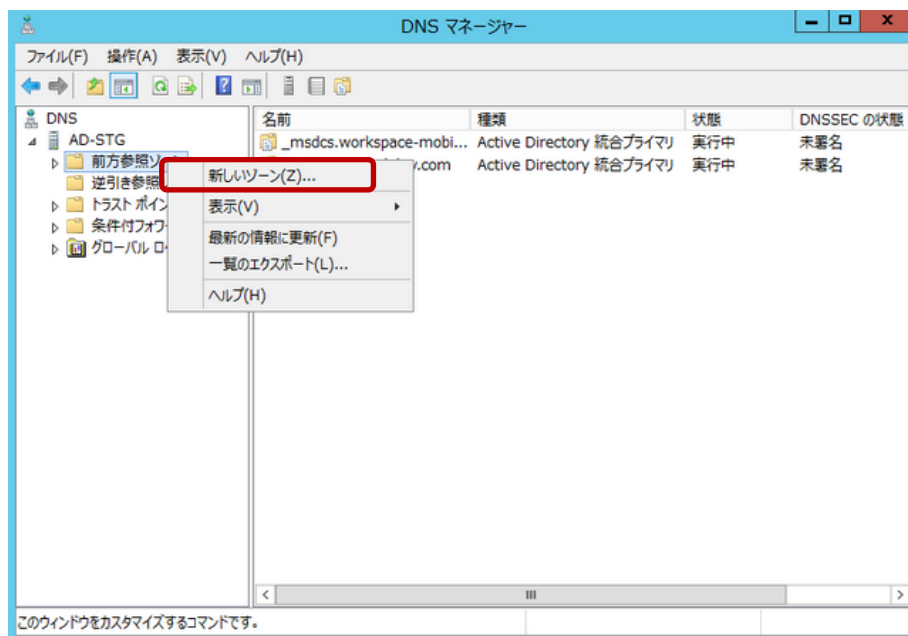
- ②「デスクトップ」画面が表示されますので、「スタート」->「管理ツール」の順番でクリックします。



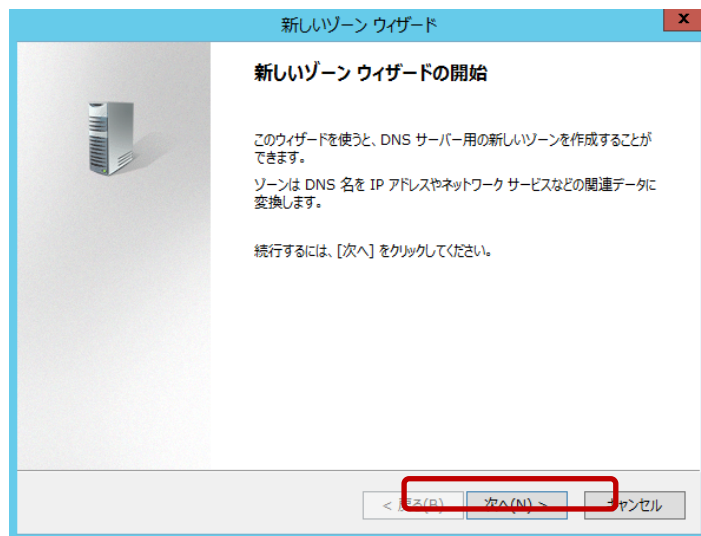
- ③ 「管理ツール」画面が表示されますので、「DNS」をクリックします。



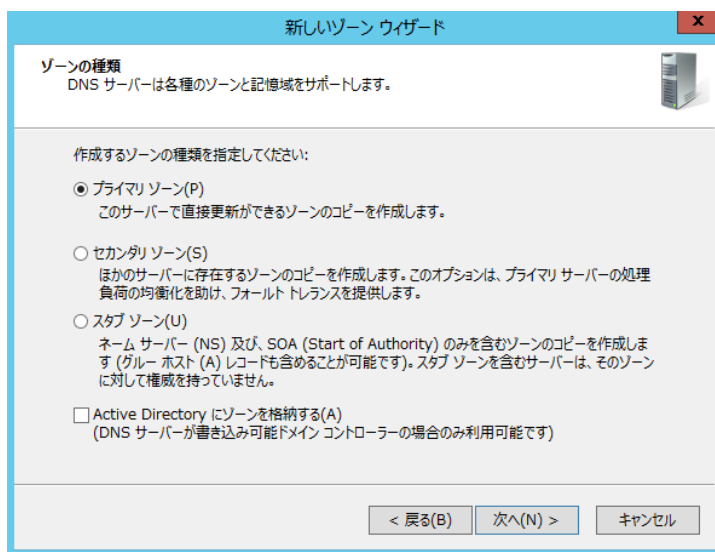
- ④ 「DNSマネージャー」画面が表示されますので、「前方参照ゾーン」を右クリックし、「新しいゾーン」をクリックします。



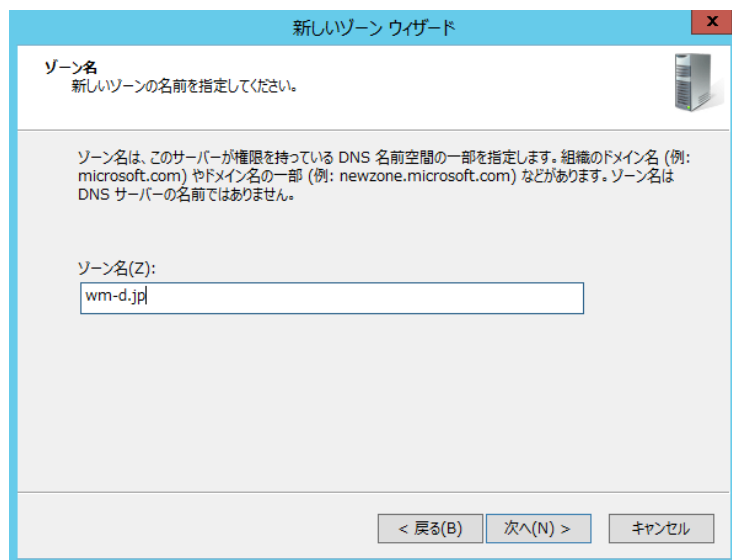
- ⑤ 「新しいゾーンウィザード」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



- ⑥ 「プライマリゾーン (P)」を選択し、「次へ」をクリックします。

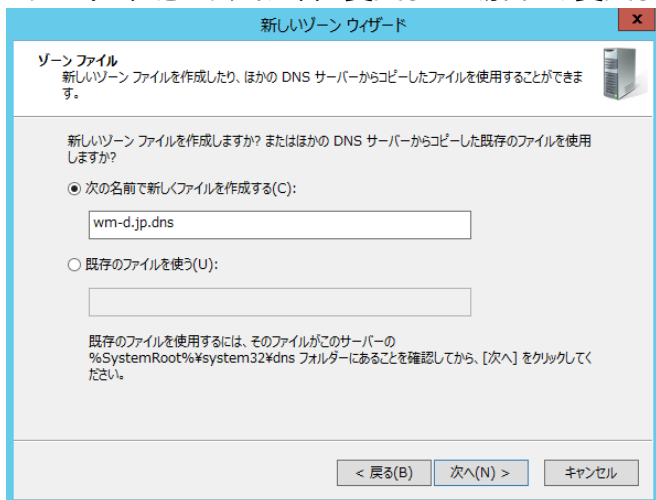


- ⑦ 「ゾーン名」に[wm-d.jp]を入力し、「次へ」をクリックします。



⑧ ゾーンファイル名を作成します。

ここでは「wm-d.jp.dns」というファイル名で作成します。デフォルト名でよければそのまま「次へ」をクリックします。（※任意のファイル名に変更したい場合は、変更してください。）



**新しいゾーン ウィザード**

**ゾーン ファイル**  
新しいゾーン ファイルを作成したり、ほかの DNS サーバーからコピーしたファイルを使用することができます。

新しいゾーン ファイルを作成しますか？ またはほかの DNS サーバーからコピーした既存のファイルを使用しますか？

☒ 次の名前で作成する(C):

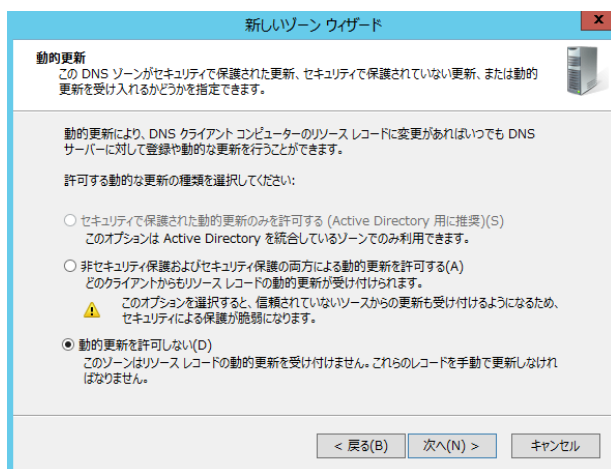
wm-d.jp.dns

☐ 既存のファイルを使う(U):

既存のファイルを使用するには、そのファイルがこのサーバーの %SystemRoot%\system32\dns フォルダにあることを確認してから、[次へ] をクリックしてください。

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

⑨ 「動的更新を許可しない」を選択し、「次へ」をクリックします。



**新しいゾーン ウィザード**

**動的更新**  
この DNS ゾーンがセキュリティで保護された更新、セキュリティで保護されていない更新、または動的更新を受け入れるかどうかを指定できます。

動的更新により、DNS クライアント コンピューターのリソース レコードに変更があればいつでも DNS サーバーに対して登録や動的な更新を行うことができます。

許可する動的な更新の種類を選択してください:

☐ セキュリティで保護された動的更新のみを許可する (Active Directory 用に推奨)(S)  
このオプションは Active Directory を統合しているゾーンでのみ利用できます。

☐ 非セキュリティ保護およびセキュリティ保護の両方による動的更新を許可する(A)  
どのクライアントからもリソース レコードの動的更新が受け付けられます。  
このオプションを選択すると、信頼されていないソースからの更新も受け付けるようになるため、セキュリティによる保護が脆弱になります。

☒ 動的更新を許可しない(D)  
このゾーンはリソース レコードの動的更新を受け付けません。これらのレコードを手動で更新しなければなりません。

< 戻る(B)    次へ(N) >    キャンセル

⑩ 新しいウィザードの完了となります。内容を確認し、完了をクリック。



**新しいゾーン ウィザード**

**新しいゾーン ウィザードの完了**

新しいゾーン ウィザードが完了しました。指定された設定は次のとおりです:

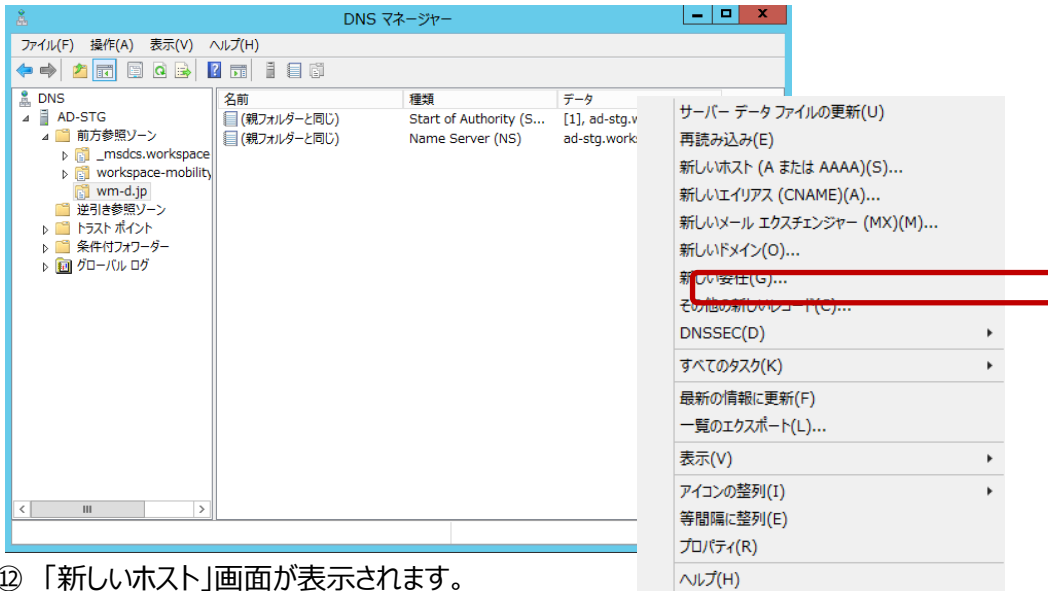
名前: wm-d.jp  
種類: 標準プライマリ  
参照の種類: 前方  
ファイル名: wm-d.jp.dns

注意: ゾーンにレコードを追加するか、またはレコードが動的に更新されることを確認してください。その後、nslookup を使って名前の解決を検証してください。

このウィザードを閉じて新しいゾーンを作成するには、[完了] をクリックしてください。

< 戻る(B)    完了    キャンセル

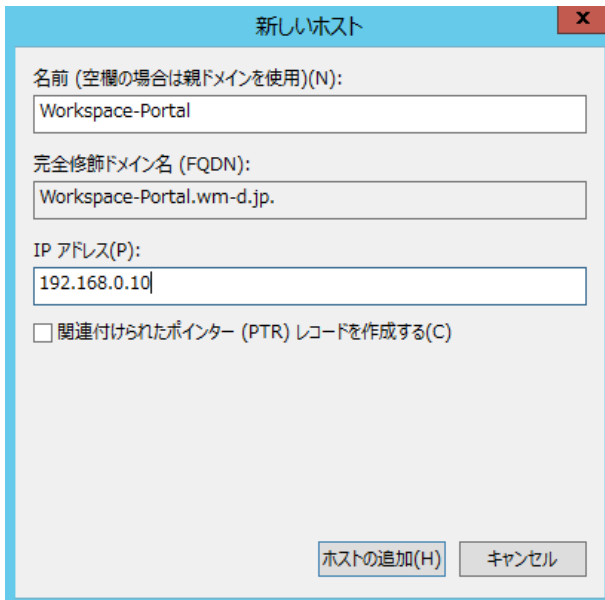
- ⑪ 「DNSマネージャー」画面にて、作成したゾーン名が表示されていることを確認し、ダブルクリックしてください。右枠の空いている箇所を右クリックし、「新しいホスト（AまたはAAAA）」を選択し、クリック。



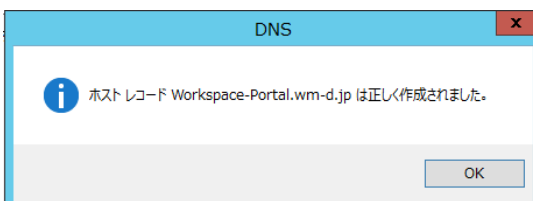
- ⑫ 「新しいホスト」画面が表示されます。任意の名前とお客様側で事前に払い出されたIPアドレスを入力し、「ホストの追加」をクリック

※名前：管理コンソールのURLの一部となります。例) <https://任意の名前.wm-d.jp:8088/>

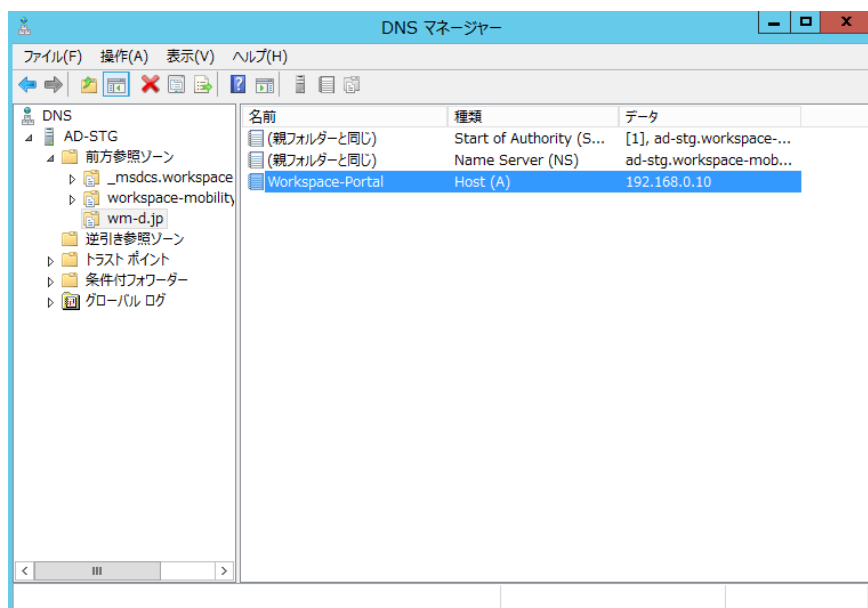
※IPアドレス：レンジの11番目を入力してください。例) 192.168.0.0/24の場合は、192.168.0.10となります。



- ⑬ 正しく作成されたことを確認。

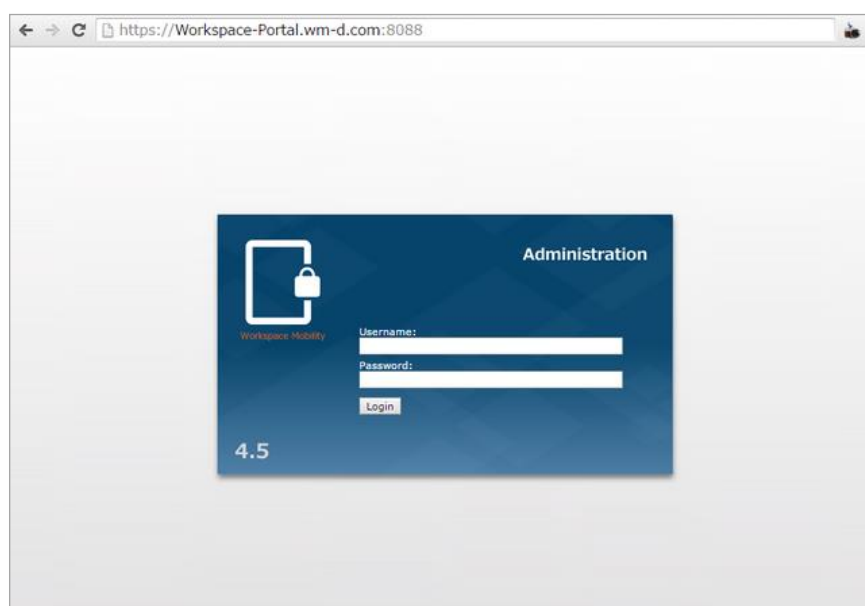


- ⑭ 「DNSマネージャー」画面で、任意の名前（ホスト名）とIPアドレスが設定されていることを確認してください。



- ⑮ 任意のブラウザを利用して、任意の名前（ホスト名） + ドメインでアクセスしてください。  
<https://任意の名前.wm-d.jp:8088/>

下記の画面「Workspace Mobilityの管理コンソール」が表示されることを確認してください。





## Workspace Mobility

お客様システム事前設定ガイド（ADサーバ／Exchangeサーバ／DNS）

Ver.1.1 2016年12月版

本書に記載されている情報、事項、データは、予告なく変更されることがあります。

本書に記載されている情報、事項、データは、誤りや落丁がないように最善の注意を払っていますが、本書に記載されている情報、事項、データによって引き起こされた遺失行為、傷害、損害等について、弊社は一切、その責任を負いません。

本書を弊社に無断でその一部、あるいはその全部を複写、複製（コピー）、追加、削除、加工および転載することを禁じます。

※法律に関する事項：

Workspace Mobility はNTTコミュニケーションズ株式会社の商標サービスです。

DMEはExcitor A/Sの商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

iPad、iPhoneは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

Android、Google play、Google Chromeは、Google Inc.の商標または登録商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標は、Oracle Corporationやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

インテル、Celeron、Pentium、Xeonは、米国Intel Corporationまたはその子会社の米国、およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

本文中に ™、®、©は明記していません。